

環境がどのように変わるかは  
 予測できるものではありません  
 環境に適応することが進化であるけれど  
 その根底にある「生きる」ということが  
 大事ではないでしょうか

今泉 忠明



# 同朋新聞

どうぼうしんぶん

Dōbō Shimbun

12

Vol. 781 December 2022

Shinran  
 S50th  
 S100th

〽️慶讃テーマ〽️  
 南無阿弥陀仏  
 人と生まれたことの意味をたずねていこう



慶讃特設サイト

発行所  
 真宗大谷派宗務所  
 代表者 木越 渉  
 編集/東本願寺出版(真宗大谷派宗務所出版部)  
 〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る  
 TEL.075-371-9189(東本願寺出版)  
 購読料 無料  
 送料 1部 1,300円(部数により変動)  
 振替口座番号 01000-6-27404  
 加入者名 東本願寺出版部

今月の写真

アフリカゾウの群れ。  
 ヒト以外の動物で三代にわたって伝承ができるのはゾウだけだという。  
 いのちをつなぐために大切に伝承されてきたこととは何か。そして、  
 私たちは次の世代に何を手渡していくのだろうか(2・3面参照)。

CONTENTS

2・3面

人間といういのちの相

生き物たちが  
 教えてくれること(前編)  
 今泉 忠明さん



6・7面

座談会

であう つながる ともにある  
 —「子どものつどい  
 in東本願寺」に向けて—



4面

現在を生きる

御同朋・御同行からの問いかけ  
 ～是施陀羅の課題～ 第13回

5面

親鸞聖人にであう

第5回

8面

聞 今月の法話 第27回

10・11面

慶讃NEWS

名古屋教区  
 富山教区  
 三重教区  
 慶讃法要お待ち受け大会  
 開催

連載

# 人間といういのちの相



富士山 赤池にて

「子どもたちに生き物を紹介する切り口として、『さんねん』という本を取り上げられたのはなぜでしょうか。」

「これまでは力があるとか、スピードがあるといった、動物が優れているかという視点がメインで動物を取り上げることが多かったと思います。逆に人間から見て、ちよと残念に感じてしまう、けれども一生懸命生きている、そんな新たな生き物たちの一面を知ってほしいということで作ったのが、『さんねん』という『事典』です。」

「生き物のつながりの中で、残念な部分というのは、他のものに立っているという視点から見ると、あつていい部分なのです。チーターは猛スピードで走って獲物を捕るよう進化し、時速110キロで走ることが、」

「とになります。努力をしても次の世代への積み重ねができないのです。さらに知能を持つ人間は、急激な進歩をしたのだらうと思います。私たち人間の直接の祖先はクロマニヨン人ですが、それまでの人類と違ったのは複雑な言葉を使えるようになったこと、これが文明や文化の発達に貢献したと言われています。」

「その進化の中で『欲』というものが出てきます。それまでは生きるのに必死で、そのための文化を積み上げることをしてきたのが、農作物を作れるようになり、お金というものが発明されたことからそれをためようとする人が出てきたのでしょう。以来、知能が発達して複雑な感情を言葉で表現できるようになった人間は、栄えたいという欲を、文化の中でかき立ててきたのではないのでしょうか。」

「ヒト以外の動物で三代にわたって伝承ができるのはゾウだけです。ゾウの雄は成長すると群れを出ていくので、おばあちゃん、お母さん、娘という女系の中で知恵が伝わっていきます。水や食べ物のある場所は季節ごとに変りますから、『この時期はあそこに行けばいいものがある』と、おばあちゃんが歩き始める。それにみんながついていくと確かに食べ物や水があり、ますますおばあちゃんを信頼する。生きていく中で、伝承は、とても大事なことです。伝承がないと、みんなスタートから始めるこ

「ことができます。ところが、それだけのスピードで走るには大量の酸素を必要とするために、鼻腔が大きいので、そうすると、牙の生えるスペースがなくなつて、戦う力が非常に弱いです。そこから、獲物を捕つても、しょうちゅうハイエナやライオンに横取りされています。そんな残念な部分、結局、他の動物を養うことにつながっています。」

「残念な部分は、進化から取り残された部分が多いのですが、それは、この時に強い性質を秘めていて、必要な部分だと思えます。今を生きる子どもたちの姿を見ていて思うことは、いかに『がんばれ』と言われていて、子どもが多いかということ。私たちが人間は生まれ育つ時、最初にハイハイをしたり、ヨチヨチ歩きをしたりする幼少期から『がんばれ、がんばれ』と声をかけられ、知らず知らずのうちになんげって何かを目指すと、という方向に考えるようになってい

「るのではないのでしょうか。そんな子どもたちが『さんねん』という視点から見ると、残念な部分が多いので、意図づけようとする私たちが、間。さんねんないきものたちの姿は、私たちに何を伝えているのか、どこかさんねんないきものことである』という今泉忠明さんの しようか。今泉さんのお話を通して、人間の相を考えます。」

「今、目の前にあることだけではなく、その背景や歴史を大切にしなければならぬと感じました。子どもたちに動物を紹介される際にどんなことを大切にされていますか。」

「一つは、進化は新たな環境に適応した結果起こる現象であり、時間がたてば進化するというものではないということ。例えば、雨が毎日降るようなところで生き延びたものは、雨に強い生き物になりま

「す。逆に、何年たっても変わらない生き物もいます。約3億年前からいるオウム貝というタコの祖先がいますが、いまだに元気に泳いでいます。また、シーラカンスという魚は、6600万年前に絶滅したと思われたのですが、当時のままの姿で今前に現れていて、いまだに人間の台

「所に入り込んで走り回っています。何年たっても変わらないものは変わらないのです。もう一つは、新しい環境に適応することはどうということなのかということです。恐竜を見てもわかるように、環境に適応し過ぎた生き物は、環境が変わった時に、逆に絶滅します。ジャイアントパンダの『さんねん』な点は、栄養価がほとんどない竹を一日14時間も食べていること。竹林という環境に一生懸命適応して、細々と生きています。栄えている動物は少なく、栄えなくても辛うじて生きている動物の方が多いです。栄えている動物は、環境が変わればやがて消えていきます。そうすると、辛うじて生きていたものの中から、次の代を担う動物が出てきます。どういふふう環境が変わるかは予測できるものではありません。環境に適応するというのが進化ですが、その根底である『生きる』ということが大事だと思えます。何も無理して環境に適応することはないのです。」

「大人の社会で言えば、環境に適応するために、会社をどんどん大きくしていったとしても、今のままから大きな会社になるというタイミングで、環境が変わる場合があります。人間の場合は、経済的な環境が変わるといこともありますが、例えばそれまで大きかった会社が、オイルショックがきっかけであつて

# 生き物たちが教えてくれること

## 「前編」

インタビュー 今泉 忠明さん



動物学者。1944年東京都生まれ。東京水産大学(現東京海洋大学)卒業。国立科学博物館で哺乳類の分類学・生態学を学ぶ。文部省(現文部科学省)の国際生物学事業計画(IBP)調査・環境庁(現環境省)のイリオモテヤマネコの生態調査等に参加。上野動物園の動物解説員、ねこの博物館館長、日本動物科学研究所所長などを歴任。ベストセラー『さんねんないきもの事典』(高橋書店)のほか、多くの図鑑監修を手がける。

この紙面では、さまざまな人を通して、現代社会の抱える課題や人間そのものについて考え、宗祖御遠忌テーマ「今、いのちがあなたを生きている」、慶讃テーマ「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」の学びを深めていきたいと思います。

### 「さんねん」な生き物

「子どもたちに生き物を紹介する切り口として、『さんねん』という本を取り上げられたのはなぜでしょうか。」

「これまでは力があるとか、スピードがあるといった、動物が優れているかという視点がメインで動物を取り上げることが多かったと思います。逆に人間から見て、ちよと残念に感じてしまう、けれども一生懸命生きている、そんな新たな生き物たちの一面を知ってほしいということで作ったのが、『さんねんないきもの事典』です。」

「生き物のつながりの中で、残念な部分というのは、他のものに立っているという視点から見ると、あつていい部分なのです。チーターは猛スピードで走って獲物を捕るよう進化し、時速110キロで走ることが、」

「とになります。努力をしても次の世代への積み重ねができないのです。さらに知能を持つ人間は、急激な進歩をしたのだらうと思います。私たち人間の直接の祖先はクロマニヨン人ですが、それまでの人類と違ったのは複雑な言葉を使えるようになったこと、これが文明や文化の発達に貢献したと言われています。」

「その進化の中で『欲』というものが出てきます。それまでは生きるのに必死で、そのための文化を積み上げることをしてきたのが、農作物を作れるようになり、お金というものが発明されたことからそれをためようとする人が出てきたのでしょう。以来、知能が発達して複雑な感情を言葉で表現できるようになった人間は、栄えたいという欲を、文化の中でかき立ててきたのではないのでしょうか。」

### 強さ、弱さとは

「進化の足跡をたどっていくと、自分が生きている今よりもずっと前の時代から、時間をかけて、それなりの理由があつて動物たちの特性が形づくられてきたことの壮大さを感じます。恐竜が絶滅したこと一つを取り上げても、強い生き物だけが生き残ってきたのではないことがわかります。動物にとつての強さや弱さとはどういうことなのでしょう。」

「強さ、弱さというのは相対的なものです。近場に強いものがいれば自分はちよと弱いけれど、周りが弱ければ自分は強い。常に順位は変動するものです。また、相対的な強さや弱さだけでなく、見かけは弱いけれど、芯が強いといった、その個体がどれだけ心の中に強さを秘めているかということも大切だと思っ

「ています。見かけが進化していても、心の中は弱いという動物もいるわけです。逆に、進化していなくても、根性がある動物もいます。今は、見かけがかわいいか、力が強そうといったうわべに重点が置かれているのではないのでしょうか。本当は、そうではないと思うのです。表面的な部分ではなく、見えない部分、心の中に本当の姿がある。そこを見てほしいなと思います。」

「今も各地で争いを起こし、他よりも強くあろうと力を競う人間の姿があります。進化をとおりおられますか。」

「人間は動物の仲間から進化してきたのですが、火を発明して以来、暮らし方が動物とは違ってきました。火を調理に使うことによつて、食べ物を消化しやすくなり、病気の原因となる寄生虫が死にます。そして火によつて暖を取ることが、」

「今を生きる子どもたちの姿を見ていて思うことは、いかに『がんばれ』と言われていて、子どもが多いかということ。私たちが人間は生まれ育つ時、最初にハイハイをしたり、ヨチヨチ歩きをしたりする幼少期から『がんばれ、がんばれ』と声をかけられ、知らず知らずのうちになんげって何かを目指すと、という方向に考えるようになってい

「るのではないのでしょうか。そんな子どもたちが『さんねん』という視点から見ると、残念な部分が多いので、意図づけようとする私たちが、間。さんねんないきものたちの姿は、私たちに何を伝えているのか、どこかさんねんないきものことである』という今泉忠明さんの しようか。今泉さんのお話を通して、人間の相を考えます。」

「今、目の前にあることだけではなく、その背景や歴史を大切にしなければならぬと感じました。子どもたちに動物を紹介される際にどんなことを大切にされていますか。」

「一つは、進化は新たな環境に適応した結果起こる現象であり、時間がたてば進化するというものではないということ。例えば、雨が毎日降るようなところで生き延びたものは、雨に強い生き物になりま

「す。逆に、何年たっても変わらない生き物もいます。約3億年前からいるオウム貝というタコの祖先がいますが、いまだに元気に泳いでいます。また、シーラカンスという魚は、6600万年前に絶滅したと思われたのですが、当時のままの姿で今前に現れていて、いまだに人間の台

最新刊

470万部突破の『さんねんないきもの事典』第7弾！ 『やっぱりさんねんないきもの事典』

定価1,100円税別 高橋書店

次号も今泉さんのインタビューを掲載します。

今泉忠明さん監修の書籍紹介

おもしろい！進化のふしぎ 『さんねんないきもの事典』

定価990円税別 高橋書店

# 通信員リレーレポート Vol.231

日本全国のご門徒の方々や各地で開かれている同朋の会を紹介します。

おみがきが終わったピカピカの花瓶に、「この日のために一年をかけて準備された藁で「込み藁」が入れられていく。そして池坊の「幹造り」と呼ばれる立花(松などの幹を人工的に作り、これに小枝を取り付けて組み立てたもの)を立てる。一つの小枝を作るには針金で形を整えていくという細かい作業を伴う。一杯の立花を立てるのに必要な枝の数は、およそ四百本を超えるそうだ。御遠忌や大法要ともなると仏花の数も増え、気が遠くなるような手間と時間が必要となると話す。



通徳寺古典仏華会の皆さん(後列右2番目から松田さん、加藤住職)

通徳寺の報恩講の時期が近づくと、ご門徒方で構成される通徳寺古典仏華会がお花の準備を進める。会長を務める松田さんは、通徳寺の行事のたびに仏花を立て

## つながるかたち

京都教区近江第2組 通徳寺門徒  
松田 實さん (75歳)

## 現在を生きる

花立てが始まると「真(しん)、副(そえ)、体(たい)」の言葉が飛び交う。ベテランの方たちは、アドバイスをしながら熟練の技を次の世代に伝えることにも余念がなく、非常に活気があった。通徳寺がある大津市瀬田の南大萱では江戸時代末期から明治時代にかけて立花、仏花が楽しめるようになったと伝わっているそうだ。

なぜこんなに手をかけてお花を立てるのですか? とたずねると、「仏様へのご奉仕と思つてさせてもらっています。だから精いっぱいのお花を立てさせてもらつてらるんです。みんながそうしてきましたから」。そうお話しくださる顔からは、ご苦労よりも今年もお花を立てられる喜びを感じておられるようだった。

個人でお花を楽しむだけではなく、手間をかけ、報恩講の特別なお荘厳のお花を立てている姿から、通徳寺古典仏華会の皆さんの中にある相応な覚悟を感じた。松田さんをはじめ皆さんもきつと同じで、だからこそ毎年年、報恩の心を仏花というかたちで表現できることに喜びを感じておられるのではないだろうか。



報恩講用仏花の幹造りの再現(花入れ前)

京都教区通信員  
治田 保男

御同朋 御同行 からの問いかけ  
～是旃陀羅の課題～  
第13回

### 今、問われていること(5) 聞法の再出発

「是旃陀羅」の課題において踏まえておかなければならぬこととして、前号で紹介した女性差別とともに、聖教の中にある障害者差別に関する問題があります。

無自覚に使ってしまうという形であらわれます。本人には差別をする気持ちはなくとも、障害のある人を傷つける言葉となってしまうのです。

私たちは、「是旃陀羅」の課題から、あらためて自分にとって聖教とは何かという聞法の姿勢が問われています。聖教の言葉に向き合うとはどういうことなのか。「是旃陀羅」の課題について考えていくことは、聖教における他の差別的表現についても課題としていくことなのです。

私たちの宗門は、差別に苦しむ人々からの声によって、自らの差別体質が問われてきました。真宗門徒が大切にしてきた聞法という営みの中で、人間が生み出す差別ということを十分に課題とせずに仏法を語ってきたことが明らかとなったのです。

障害者差別は、身体的・精神的障害のある人に対し、同じ人間を人間として見ずに、社会から排除するなどの差別的言動のことを言います。障害者に向けられるそのような眼差しは、日常生活の中でも、目が見えないことを「めくら」、耳が聞こえないことを「つんぼ」と表現するなど、否定的な意味を表す際に、差別としてはたらく言葉を

差別としてはたらく言葉について、その言葉によって傷つく人がいるということにどこまで思いが至っているのか、無自覚のまま誰かを傷つけていないか。聖教の言葉をとおして、現実の課題に埋もれている自身のあり方について見つめる姿勢を、差別言辞に表される差別問題から問い直していくことが、聞法の再出発として「是旃陀羅」の課題からあらためて投げかけられているのです。

宗門が問われている「仏説観無量寿経」における「是旃陀羅」の語について、様々な視点からこの問題を考えていかなければなりません。このコーナーでは、これまでの歴史を振り返りながら、宗門に属するすべての人々が課題を共有できるような情報を発信していきます。

この記事に関するお問い合わせ

解放運動推進本部

075-371-9247  
kaho@higashihonganji.or.jp

12月7日発売

大好評

「はじめて読む正信偈」が書籍化

## はじめて読む正信偈

井上尚実 (著)  
B6判 224頁 定価:1,210円(税込)

『同朋新聞』連載中に大好評を博し、書籍化の要望を多数いただいていた「はじめて読む正信偈」が書籍になりました。浄土真宗で親しまれる「正信偈」に込められた親鸞聖人のお心を学び、味わうための入門書です。



詳しい書籍情報は  
東本願寺出版

ご注文は東本願寺出版(075-371-9189)まで

検索

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌記念  
紅地天人之図総手刺繍御打敷謹納

〒600-8159 京都市下京区烏丸通東本願寺前  
TEL フリーダイヤル 0120-07-6391  
FAX フリーダイヤル 0120-34-2816  
https://shibata-houten.com/ @SHIBATAHOUTEN  
(Webカタログ掲載・商品動画配信)

真宗大谷派 東本願寺御用達 京法衣事業協同組合加盟店

株式会社 柴田法衣店

## 入試対策講座

12/18 日  
9:30-15:30 事前申込制

詳細・お申込はこちら



- A 大学説明会
- B 一般入試対策 模擬試験と解説
- C 個別相談

\*状況によっては、日程および内容が変更となる場合があります。

一般入試のポイントや対策方法などを、  
駿台予備学校講師がわかりやすく解説します!

お問い合わせ：入学センター  
〒603-8143 京都市北区小山上総町  
TEL: 075-411-8114(直通)  
E-mail: nyushi-c@sec.otani.ac.jp

Be Real 大谷大学  
寄りそう知性



第5回

「夢」

# 聖徳太子と六角堂参籠

親鸞聖人は、「煩惱を断つてさとりを開く」という仏道にすべてを任せ、修行・修学に励んでおられました。しかし、どれだけ修行を積み学問を重ねても、心は晴れることなく、苦悩は深まるばかりでした。そんな29歳の春、聖徳太子建立と伝わる六角堂(頂法寺)にて百日間の参籠を決意されます。ある目的の成就を願い、日数を定めて寺社仏閣にこもる参籠は、聖人の時代には盛んに行われていたようです。

聖人にとって聖徳太子は、和讃の中で「和国の教主聖徳皇」と詠われるように、「我が国の釈尊のようなお方」として、心から尊敬された方でした。在家・出家の別、身分や地位の違いにかかわることなく、仏教がすべての人に開かれることを願われ、また、仏教精神に基づき法を定め、政治を行われました。参籠の場として六角堂を選ばれたのは、自分が抱える苦悩をその聖徳太子にたずねようと思われたのかもしれない。

あと数日で百日というある日の明け方、六角堂のご本尊である観音菩薩が夢に出てきて、次のように告げたと伝えられています。

“修行者よ、もしもあなたが人間として生きる上で、女性を傷つけてしまうような道を生きざるを得ないのならば、この私(観音菩薩)がその女性となり、あなたと共に与えられた現実を受けとめ、必ずや仏の国に導きましよう”

# 親鸞聖人に であう

浄土真宗をあきらかにされた親鸞聖人。  
大谷中・高等学校「京都」で  
生徒とともに学ばれている乾さんと、  
中高生の素直(リアル)な問いを手がかりに、  
「人と生まれたことの意味」を  
親鸞聖人のご生涯に学んでいきます。



乾 文雄  
京都教区近江第5組  
正念寺住職  
大谷中学・高等学校講師

「みな、同じ夢を繰り返し見たという経験はない?」

「あるある。人に追いかけられている夢」「大事な日に遅刻する夢」などなど。多くの生徒にもその経験はあるようです。

「私も昔よく同じ夢を見たんですよ。それは歯が全部抜けて喉に詰まって目が覚めるという夢。繰り返して見ると、あんな不思議な夢も思っていなかったよ。あの日テレビで落語家さんが、私と同じ夢を何度も見ると言っていたんですよ。それで気になって調べているうちに、夢の研究を通して心の病と向き合っている人に出あったのよ」。

心理学では「夢は潜在意識の顕在化である」という説があります。本人が無意識のうちに抱えている不安や願望が、夢の中で具現化されるということです。実際、私の歯が抜ける夢は、振り返ると人間関係の問題を抱え、息の詰まる思いをしていたときに見たという記憶があります。自分では気にしていないつもりだったのに、心の奥底に溜まる悩みが、夢の場を借りて私に意識化させてくれたのかもしれない。

「さて、この夢の告げの意味を考えるとときに問題になるのは「戒」やな。戒というのは、元々は「努力目標」ぐらいの意味でな、仏教徒には基本的な「五戒」というのがあるのよ。少々乱暴やけど、わかりやすくいうと「いのちを傷ついたらあかん。他人の物を盗んだらあかん。人間関係を壊すような淫らな関係を結んだらあかん。嘘をついたらあかん。酒を飲んだらあかん」と感じかな。他にも当時のお坊さんは肉食妻帯(出家

修行者が肉を食し、妻をもつこと)が許されていなかったんですよ」

「ここからは私の勝手な想像やけどな、親鸞さん、好きな人ができて結婚したかったんちゃうかな。もしそうだとしたら、雲の上のような存在に思えた人が、ずっと身近に感じられてうれしく思えた記憶があるのよ。でもそれはもはや比叡山にはいられないという意味やしなく。しかし、仏教の学びは続けたい。もうほんまにどないしたらええねん!」ってなっていたんちゃうかなと思つたのよ」

「ところがやで、聖徳太子は結婚して家庭を持つておられた。さらには、当時、同じく比叡山で学ばれていた法然という偉いお坊さんが、「さとりを開くのに煩惱も破戒もさまたげにはならない。ただ阿彌陀という仏さんを信じ、その名前を称えながら生活を送ればよい」という教えを説いておられたのよ。親鸞さんは夢の告げを、法然さんのところへ行きなさいという意味で受けとめたんちゃうかな」

親鸞さんは法然さんのものに多くの人が集まり、「本願念仏」の教えを熱心に聞いておられるということも耳にされていたはずですよ。でもその教えは、20年間の努力を否定されるようにも思えたのかもしれない。しかし、「私であることを喜んで生き、本当に生きる人と成る」という願いがこのままで実現されないと、すべてを放棄して比叡山からの下山を決意されます。法然さんの説かれる教えに一筋の光を求めて。

# 座談会 2023.5.5 であうつながる ともにある 子どものつどいin東本願寺に向けて



「おじさん、今度はいつ子ども会やるの」という声。もう一つはお寺に来られてぼそっと「今、子どもたちは友だちとも会えないし、居場所を失っているぞ」という。門徒からの声でした。集まるのは難しい状況の中で、子どもたちにお手紙を出したり、「二門徒宅での仏事の際に子どもたちがお参りしている時は、法話を紙芝居にしたり、風船を渡したりしました。もう一つは悩みながらもお寺で子ども会をしている先輩からの「コロナだけ、こういうことをやってみよう」というメールでした。一歩を求めている人がいる。あなたはどうか向き合おうのですか」という声に聞こえました。そこで、お寺の総代会、保護者に対して感染拡大防止対策を徹底して開催することを話し、再開しました。今までもお寺に集まってもう一度は何かを考えていました。メッセージを届けること、そして自分が出向くこと。できることはたくさんあることに気づきました。

**酒井 義一さん** 「コロナになって、人がたくさん集まれば成功だという考えではなく、一人ひとりと丁寧に話す時と場が与えられたことを大事にしていきたいと思うようになりました。いろいろな人たちが自分を表現する場やふれあいを求めています。まさに「であう」

さまざまな形で真宗本願寺にここを向ける。それは自分自身と出あうこと。このつどいがその時間をもつ機会になってほしい。

企画している時「この子たちと一緒に来たいな」毎日お寺の鐘をつきに来てくれるきょうだいを思い浮かべます。このつどいが人と人との関係が深まるきっかけになってほしいです。



**酒井 義一さん**  
(東京教区 存明寺)



**伊藤 江麻さん**  
(九州教区 徳蓮寺)



**木村 慎さん**  
(山陽教区 興宗寺)

真宗大谷派が「子どもとともに歩む教団」であることを表現し続けていきたい。子どものつどいも、具体的にそのことが子どもにも大人にも染み込んでいくような行事にしたい。

一人ひとりの表現の場として5月5日を迎えたい。当日、何かやってみようという方、ぜひ私たちと一緒に表現してみませんか。

この先も続く真宗本願寺での行事のために人が集められるのではなく、集まった一人ひとりの根本道場として真宗本願寺があることを願っています。

「宗門は大きな法要のたびに、真宗本願寺で青少年を対象とした行事を行ってきました。近年では、2011年の宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌に際し「子ども御遠忌」が、2013年の教如上人四百回忌「子どものつどい」が開催され、そして来年度、子どものつどいを迎えます。今回のつどいで大切にしていることは何でしょうか。」

江馬 真宗本願寺は、全国から人が集まる場であり、そこで、悩み、苦しみを抱えている仲間との出あいがこもっています。真宗本願寺という場の持つ力を最大限に活かしたいと思っています。「東本願寺を知ろう」では、実際に仏具に触れることで本山の大きさを体験してほしいですし、両堂は、いつでもそこに座って手をあわせることができるところにしています。そして、お勤めの時間を午後1時にしました。午前中だとしても間に合わない方も出てきます。みんなで勤めをすることを大切にしたい。その時間はブラスもいったんお休みして全員が御影堂でお勤めします。

藤川 白洲には今回32のブラスが設置されます。白洲で行う表現は、それぞれの慶讃法要の表現の場だと考えています。この発想の原点になった人がおられます。その方は、蓮如上人五百回御遠忌の時、たった一人で一升瓶を前に置いて白洲に座って、来た人に「ようこそ」とお酒を注いで回っておられました。大型バスに乗ってきて、

法要に参拝して帰る、そのことだけでなく、人と語り合う時間を持つということがその人の御遠忌の表現だったのです。とても衝撃を受けました。一人ひとりが慶讃法要をどう受けとめて、表現していくのか。今回は過去にない数の教区からの出展が予定されていてとても楽しみです。

「みなさん、5月5日は子どものつどいでお会いしましょう。」

12月1日から子どものつどいの事前申込みがはじまります。詳しくはこちら

かわからないから、ずっと走っていた。疲れるはずですよ。私はそのことに気づいてあげられなかった。それから二人で座って、いろいろな話をしました。

たくさんありすぎると、普段は楽しめる子でも、どうしていいかわからないということもあるし、連れてきてもらったけれど、自分の思った所とはちょっと違ったなとか、いつもだった楽しめるけれど、来る途中でまたまお友だちとけんかをしたり、おうちで何かあったりして、それを引きずっている子もいます。そこでつどいの当日設置しようと思っているのが同朋会館の「サガエさんの部屋」です。誰が来て、何を話してもいい場所です。真宗本願寺であっても、You TubeやZoomの場合はパソコンの前であったとしても、そこに体と心を持ってきていただければ、その時間を安心して過ごせるつどいになってくれると思っています。

御本尊は本山からお受けしましょう

真宗門徒として帰敬式(おかみそり)を受けましょう

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要を縁として来年の5月5日、真宗本願寺で「子どものつどいin東本願寺」を開催します。

今から3年前の2019年からこの催事の準備が始まりました。このつどいを通して表現する青少年教化のすがたとは、子どものつどいのスタッフに語っていただきました。



宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要を縁として来年の5月5日、真宗本願寺で「子どものつどいin東本願寺」を開催します。

今から3年前の2019年からこの催事の準備が始まりました。このつどいを通して表現する青少年教化のすがたとは、子どものつどいのスタッフに語っていただきました。

藤川 宗門は大きな法要のたびに、真宗本願寺で青少年を対象とした行事を行ってきました。近年では、2011年の宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌に際し「子ども御遠忌」が、2013年の教如上人四百回忌「子どものつどい」が開催され、そして来年度、子どものつどいを迎えます。今回のつどいで大切にしていることは何でしょうか。」

江馬 真宗本願寺は、全国から人が集まる場であり、そこで、悩み、苦しみを抱えている仲間との出あいがこもっています。真宗本願寺という場の持つ力を最大限に活かしたいと思っています。「東本願寺を知ろう」では、実際に仏具に触れることで本山の大きさを体験してほしいですし、両堂は、いつでもそこに座って手をあわせることができるところにしています。そして、お勤めの時間を午後1時にしました。午前中だとしても間に合わない方も出てきます。みんなで勤めをすることを大切にしたい。その時間はブラスもいったんお休みして全員が御影堂でお勤めします。

藤川 白洲には今回32のブラスが設置されます。白洲で行う表現は、それぞれの慶讃法要の表現の場だと考えています。この発想の原点になった人がおられます。その方は、蓮如上人五百回御遠忌の時、たった一人で一升瓶を前に置いて白洲に座って、来た人に「ようこそ」とお酒を注いで回っておられました。大型バスに乗ってきて、

法要に参拝して帰る、そのことだけでなく、人と語り合う時間を持つということがその人の御遠忌の表現だったのです。とても衝撃を受けました。一人ひとりが慶讃法要をどう受けとめて、表現していくのか。今回は過去にない数の教区からの出展が予定されていてとても楽しみです。

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要を縁として来年の5月5日、真宗本願寺で「子どものつどいin東本願寺」を開催します。

日程

10:00	オープニング[御影堂]
10:30	東本願寺を知ろう!① (探検・体験イベント)[御影堂・諸殿] 遊ぶーSTART!(15:15まで)
13:00	おつとめ・帰敬式[御影堂]
14:00	東本願寺を知ろう!② [御影堂・諸殿]
15:30	エンディング[御影堂]

見て、触れて、東本願寺を知ろう! 御影堂と阿彌陀堂にある仏具をピカピカに磨いたり大きなお仏供(お仏飯)を近くで見られる! 境内を探検しながらシールを集めるシールラリーにも行ってみよう!



木村 子どものつどいは、慶讃法要を子どもたちと一緒に勤める場として開きたい。そして、つどいに関わるスタッフが常に立ち返るテーマとするのも確かめたい。また、2020年からのコロナ下で、人が集まる場が失われていきました。ちょうどその時期はつどいのテーマについて話し合っていた頃と重なります。今という時に、私たちが本当に求めるもの、願うものとは何かを何度も話し合い「であうつながる」とあるという言葉が出てきました。今の時代社会を生きている私たちすべてに等しく降りかかったコロナ。その中で生きる悩みや苦しみを抱えながら生きる私たちが、何と、どのように「であう」つながる「ともにある」のかという問いをもう一度確かめ直してきて3年間だったように思います。

明本 あらためて、私たちのいのちの根本にある「与えられたいのちに満足して生きていきたい」という願いに立ち返りたい。それは、人として生まれたことによって感じる共通の課題ではないでしょうか。お念仏のともじびは、私たちが生まれるずっと前から大切に受け継がれてきました。今、私たちがそのともじびを受け取っています。そのバトンをここで終わらせてはいけません。私たちがまた未来へ伝えていく。そういうつどいにしたいという

藤川 宗門は大きな法要のたびに、真宗本願寺で青少年を対象とした行事を行ってきました。近年では、2011年の宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌に際し「子ども御遠忌」が、2013年の教如上人四百回忌「子どものつどい」が開催され、そして来年度、子どものつどいを迎えます。今回のつどいで大切にしていることは何でしょうか。」

江馬 真宗本願寺は、全国から人が集まる場であり、そこで、悩み、苦しみを抱えている仲間との出あいがこもっています。真宗本願寺という場の持つ力を最大限に活かしたいと思っています。「東本願寺を知ろう」では、実際に仏具に触れることで本山の大きさを体験してほしいですし、両堂は、いつでもそこに座って手をあわせることができるところにしています。そして、お勤めの時間を午後1時にしました。午前中だとしても間に合わない方も出てきます。みんなで勤めをすることを大切にしたい。その時間はブラスもいったんお休みして全員が御影堂でお勤めします。

藤川 白洲には今回32のブラスが設置されます。白洲で行う表現は、それぞれの慶讃法要の表現の場だと考えています。この発想の原点になった人がおられます。その方は、蓮如上人五百回御遠忌の時、たった一人で一升瓶を前に置いて白洲に座って、来た人に「ようこそ」とお酒を注いで回っておられました。大型バスに乗ってきて、

「このテーマは、慶讃テーマ「南無阿彌陀仏」と生まれたことの意味をたずねて、「このつどい、子どものつどいを開催することをスタッフで確かめ、つどいのテーマを設定するかどうかという話し合いから始まりましたね。」

一人ひとりの表現の場として5月5日を迎えたい。当日、何かやってみようという方、ぜひ私たちと一緒に表現してみませんか。

この先も続く真宗本願寺での行事のために人が集められるのではなく、集まった一人ひとりの根本道場として真宗本願寺があることを願っています。

子どもも大人も「ほとけの子ども」としてつどい。みなさんと出あいたい思いでいっぱい。最後に「回向曲」をみんなで歌います。練習してきてください。

藤川 お寺の子ども会は、参加者ももともとも10人以下だったこともあり、お寺の行事で唯一休止することなく続けてこれました。また、お寺の近くに近所の人がいっぱいでも出入りできる場所を作り、さあこれからという時にコロナ下になりました。でも、その場所を開けているだけで、子どもや赤ちゃんを抱っこしたお母さんが遊びに来たり、お年寄りがお茶を飲みに来てくれたのです。ここを必要としている人がいる。僕にとつての子どもの会はそのようなイメージです。多くの子どもたちを集めて何かをするというよりも、行き場がなかったり、いろいろなものを抱えている子がふらっと来てくれて、そこでお茶を飲んだり、漫画を読んだり、勉強したり。今後もそういう形で続けていきたいと思っています。

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要を縁として来年の5月5日、真宗本願寺で「子どものつどいin東本願寺」を開催します。

南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう

第27回

遠慶宿縁

一時空を超えて届けられた声と願い

大聖寺教区 第1組 専光寺 出雲路香



今月の法話

「仏法は、聴聞にきわまることなり」(蓮如上人御一代記問書)と教えられているように、真宗門徒は昔から仏法聴聞を大切にしてきました。日々の生活の中で、仏さまの教えを聞いていただくことを願いに、毎月一話ずつ掲載します。

遡ればるか昔、二千五百年前にお釈迦様が生まれになり、悟りを開かれ、仏法をお説きになられたことに始まる仏教。長い歴史の中でそれが日本にも伝えられました。そして、八百五十年前に私たちの宗祖である親鸞聖人がお生まれになり、親鸞聖人が開かれた浄土真宗の教えが脈々と受け継がれ、こうして今を生きる私たちのにもお念仏の教えが届けています。

私は寺に生まれ、物心のつかないうちからお念仏を申す祖父母や両親、ご門徒の方々に囲まれながら育ちました。そして寺で開かれる毎月の御講では、お参りに来られたご門徒さんに「さあ、じいちゃんばあちゃんと一緒に参りしようね」と孫のように声をかけていただき、「ナンマンダブツ ナンマンダブツ」と手を合

つも不思議に満ちていて、どうしてみんなお念仏を称えているの？ ナンマンダブツって何？ と、頭の中が疑問でいっぱいになりました。ご門徒の方々が念仏を称えておられるのも、どうしても私は声に出して称えることができず、小さく手を合わせたのでした。そしてそれは、大人になってからも相変わらずで、日々の暮らしの中、思うようにはならない現実には迷え

迷うほど、お念仏を称えて一体何になるのか、お念仏の教えに救われるとはどういうことなのかと、疑心暗算ばかりが大きくなっていく毎日を送っていました。そのような中、ある先生から「南無阿弥陀仏」とは、阿弥陀仏に帰命します。阿弥陀仏を信じ生きる拠り所とします。という私たちの表明であると同時に、生きとし生けるものすべてを救います。私を信じて私の名を称えてください。という阿弥陀仏の誓いであり、願いであり、喚び声でもあるのだと教えていただきました。

東本願寺御用達 日下念珠店 〒600-8174 京都市下京区烏丸通花屋町下ル 電話 (075) 351-6325

皆様の平安 平安は三つの信念で精進しています ①優良な商品を吟味し御調製 ②価格も出来る限り勉強 ③親切と誠意あるサービス 法衣、打敷、幕、会旗、念珠、稚児貸衣裳 御本山用達 平安法衣店

丸西宗教織物 丸西「おかげさま」夏・冬用のクリーニング割引セール ★特典！全国どこでも無料発送(3領以上) 抗ウイルス除菌・消臭・抗菌加工してお届けします！ FAX 0120-051-881 TEL 0120-075-024 丸西宗教織物株式会社

クリーニング料金表 Table with columns: 品名(税込), 化繊(税込), 正絹(税込). Rows include items like 間衣, 直綴, 裳附, etc.

### 帰敬式受式記念品を一部変更します

#### 聞法ハンドバッグ(新規)

「勤行本・略肩衣入れ(袋)」の仕様が新たに。勤行本・略肩衣とともに『真宗聖典』を持ち運びいただけます。

#### 真宗大谷派勤行集(従来どおり)

#### 略肩衣(従来どおり)

#### 冊子「真宗門徒の生活」(従来どおり)

※記念品の内、「正信偈」CDは終了いたします。(2023年1月より)  
※既に受式された方で「聞法ハンドバッグ」をはじめとした記念品の再交付(有償)を希望される場合は、最寄りの教務所または研修部(帰敬式実践運動推進事務室 TEL:075-371-9185)までお問い合わせください。



帰敬式受式記念品一式

### 京都教区 参議会議員 補欠選挙

京都教区では、10月14日、立原誠一参議会議員の辞職に伴う京都選挙区参議会議員補欠選挙を実施し、柴田慶三氏(山城第一組常念寺門徒)を選出した。

### ご案内

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、休館日・開館時間及び掲載内容について、中止・延期もしくは日程等を変更する場合がありますのでご了承ください。

真宗本廟(東本願寺境内) 京都市下京区烏丸通七条上

- ◇ 晨朝(おあさじ)【場所】阿弥陀堂及び御影堂 【時間】毎日7時～
- ◇ 晨朝法話 【場所】御影堂 【時間】毎日7時30分頃～
- ◇ 真宗本廟法話 【場所】視聴覚ホール、大寝殿または御影堂  
【時間】通常10時10分～/13時10分～  
速夜日(12・27日)13時10分～ 御命日(28日)9時30分～  
※その他、時間・会場を変更する場合があります。
- ◇ 参拝接待所ギャラリー 【時間】9時～16時  
人権週間ギャラリー展 12月6日～12月26日  
修正会の荘厳と仏花 12月29日～1月7日  
「親鸞聖人のご生涯」(常設展)開催中

詳しくは、真宗大谷派ホームページまで

東本願寺

検索

しんらん交流館 京都市下京区諏訪町通六条下上柳町199番地

- ◇ 12月の定例法話【場所】1階すみれの間 【時間】毎日14時～(12日10時～)  
※毎週火曜日、12月27～1月9日は休会、その他都合により休会する場合があります。
- ◇ 12月の東本願寺日曜講演  
【場所】2階 大谷ホール 【時間】9時30分～11時  
【講師】◆4日…休会 ◆11日…青木馨(同朋大学仏教文化研究所客員所員) ◆18日…名畑直日(教学研究所研究員) ◆25日…休会
- ◇ 12月の公開講演会  
【場所】2階 大谷ホール 【日時】12月7日(水)18時～19時30分  
【講師】太田浩史(日本民藝協会常任理事)
- ◇ 交流ギャラリー(1階)【時間】開館時間に同じ  
「柳宗悦がであった土徳～人と自然がはぐくんだ越中富山の美～」展  
【期間】開催中～2022年12月15日(木)
- ◇ しんらん交流館 Tera School【場所】1階 すみれの間  
【日時】毎週月・金曜日 18時30分～20時30分  
【対象】小学3年生～高校3年生 ※幼児教室もあります。 http://www.teraschool.jp

東本願寺いのちとこころの相談室 【TEL】075-371-9280  
【開室時間】毎週木曜日 13時～17時(祝日または休館日、その他行事日は閉室)

全国のお寺での取り組みや読みもののページなど、さまざまな情報を発信しています。

浄土真宗ドットインフォ

検索

真宗門徒として帰敬式(おかみそり)を受けましょう



全日本仏教会会議関係者らと

## 大谷暢裕門首が全日本仏教会会長として各種大会に臨席

10月7日から8日、「第46回全日本仏教会 議山梨・身延山大会」が日蓮宗総本山・身延山久遠寺(山梨県)にて開催され、全日本仏教会会長及び大会総裁として大谷暢裕門首が臨席した。

全日本仏教会会議は、全日本仏教会並びに主に開催地の都道府県仏教会が主催となり、2年ごとに開催されている全国大会で、これまでさまざまなテーマについての議論や、仏教徒の立場からの提言・宣言の発表等がなされてきた。今大会は『共に生きる尊さ』をテーマとして、記念講演やパネルディスカッション等が行われ、大会2日目の「記念法要」では、本大会総裁である門首を導師に、大谷派の次第を用いて法要が勤まった。

また、10月18日から20日には、「第30回世界仏教徒会議」がタイ・バンコクにて開催され、全日本仏教会会長として門首が臨席した。本会議は、世界各国における170の地域センターが加盟する「世界仏教徒連盟(以下「WFB」)」が主催する2年に一度の世界大会であり、WFBにおける各種委員会の活動報告や、将来の活動計画の決定などが行われる。今大会では、山梨・身延山大会と同様に、門首が導師を務め、大谷派の次策を用いての法要が勤まった。また、門首による各種スピーチは英語にて行われ、国籍・人種を超えた世界各国の仏教徒とともに、仏陀の「和」の精神のもと、仏教文化の宣揚と世界平和に向けた歩みを進めることが確認された。



世界仏教徒会議においてスピーチする大谷暢裕門首

### 読者のお便り



#### 鐘の音

滋賀県在住 女性(71歳) ※投稿時

我が家の近くにお手次の円願寺さんがあります。住職さんやお参りの際、親鸞聖人や法然上人についてのお話や「正信偈」の内容などありがたいお話をしてくださいます。幼い頃から親しんできた「正信偈」ですが、「同朋新聞」で連載されていた「はじめて読む正信偈」をあらためて読み返しております。

その円願寺の住職さんは、朝7時と夕方5時に鐘を叩いてくださるのですが、聞こえてくる鐘の音とともに、最近日は落ちるのが早くなったなあと季節の移ろいを感じます。どんな天候の時でも、毎日欠かさず決まった時刻についてくださることに頭が下がる思いです。

11月に72歳の誕生日を迎えますが、感謝の心を忘れずにこれからも過ごしたいと思っております。

#### お便り募集

「同朋新聞」の感想をはじめ、日々の思いなどを寄せてください。

宛先 Eメール/shuppan@higashihonganji.or.jp  
FAX/075-371-9211  
〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上 東本願寺出版「同朋新聞編集係」  
住所氏名年齢電話番号を明記してお送りください。  
紙幅の都合上、掲載時は添削・抜粋させていただきます。

### 無料『同朋新聞』電子版を東本願寺出版ホームページで公開しています!

毎月お届けしている『同朋新聞』。東本願寺出版のホームページから1年分を無料でご覧いただけることをご存知ですか。手元に新聞がない時や、「先月のあの記事をもう一度読みたいな」と思った時など、スマホやパソコン、タブレットで気軽にお読みいただけます。毎月1日に更新しています。ぜひご覧ください!



クロスワードパズルの応募もメールでできます。ぜひご応募ください。



# 三重教区 宗祖親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要お待ち受け大会 —「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」をテーマに—



帰敬式の様子

10月8日、三重教区お待ち受け大会が開催されました。午前、桑名別院本統寺において、大谷裕新門剃刀による帰敬式が執り行われ、新たに75人の仏弟子が誕生しました。午後は、柿安シティホール(桑名市)において、講演とパネルディスカッションが行われ、約400人が参加しました。真宗宗歌を唱和した後、花山

孝介三重教区会議長、酒井良参務の挨拶がありました。続いて、安田雅三重教務所長の調声のもと勤行があり、教区教化委員及び各諸団体より選出された代表が出陣しました。その後、大谷裕新門による挨拶があり「宗祖聖人が顕らかにされた本願念仏のみ教えに生きようではありませんか」との言葉が参加者へ届けられました。

引き続き、慶讃テーマである「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」を講題に、高柳正裕氏(学仏道場「回光舎」舎主)の講演が行われました。高柳氏は、自身の体験をもとに、「阿弥陀さんのa-mitaとは、量らない、断定しないという意味。阿弥陀さんの量らない心の光にふれて、自分がいかに人を量り、決めつけているか

に気づかされる。そこに懺悔さんげがおこる。気づかされて頭が下がると、目の前の存在を拜むことができる。これが礼拝であり、礼拝がなければ、目の前の存在に本当にあえることはできない」と語りました。

続いてパネルディスカッションが行われました。パネリストに慶讃テーマの作成に関わった結柴依子氏(東北教区浄専寺)、中山郁英氏(長浜教区徳満寺門徒)、講師の高柳正裕氏を迎え、コーディネーターの大橋宏雄氏(三重教区浄願寺)の進行のもと、慶讃テーマが発表されて3年を経た今、一人ひとりの歩みの中でどのようにテーマを受けとめているか、また、慶讃テーマが策定される中で大切にしていたことなどについて語り合われました。最後にパネリストから大会参加者へのメッセージが伝えられました。その後、合唱団「ひかり」による「回向曲」合唱の様子をビデオで上映され、林恒男教区門徒会長の挨拶の後、恩徳讃を唱和し、大会が閉会しました。午後の部は、ライブ配信も行われ、当日は約180人が視聴しました。それ以降、約1,300回を超える視聴をいただいています。

(三重教区通信員 山田潤貴)



講演(高柳正裕氏)

## ◆◆◆◆ 東本願寺門前エリア 催事のご案内 ◆◆◆◆



東本願寺前市民緑地完成イメージ図

2023年3月、慶讃法要の始まりに合わせ、いよいよ東本願寺の門前に、「東本願寺前市民緑地」がオープンする予定です。

東本願寺で勤まる「慶讃法要」期間中、市民緑地の始まりを飾るイベントとして、門前エリア一帯でさまざまな催しが予定されています。

新たな門出を迎える東本願寺門前エリアを、慶讃法要のご参拝とあわせて、ぜひお楽しみください。

### オープニングイベント

開催日:2023年3月24日(金)午後(予定)

場所:東本願寺前市民緑地

東本願寺前市民緑地のオープンに合わせてセレモニーを開催。日程や詳細は、決まり次第お知らせします。

### 東本願寺前市民緑地でのイベント

期間:2023年3月25日(土)から4月29日(土)

場所:東本願寺前市民緑地

期間中の平日(月~金)は、新たな市民緑地の日常の過ごし方を感じていただけるような場を展開します。

それぞれ思い思いのスタイルで、新たな市民緑地をご体感ください。平常の市民緑地の姿に加え、キッチンカーの出店などを予定しています。

また、土曜・日曜は、京都ゆかりのお店など、さまざまなご縁が集う「マルシェ(市場)」を開催します。

マルシェにあわせ、緑地エリアには、遊具などが設置され、お子さまもお楽しみいただけます。



※イラストは土日の「マルシェ」イメージです  
※出店店舗は週ごとに変わる予定です  
※イメージのためイラストとは異なる場合があります

### ●●● 渉成園 ●●●

期間中の渉成園においても、特別イベントを予定しています。

詳細が決まり次第、慶讃法要特設サイトにてお知らせしますので、続報をお待ちください。

続報・詳細については慶讃法要特設サイトをご確認ください



### 慶讃法要ボランティア募集!

“慶讃法要ボランティア”としてご協力いただける方を募集しています。真宗本廟で、全国の御同朋とともに慶讃法要をお迎えしませんか。多くの方々の参加をお待ちしております。

- 募集対象** 真宗大谷派の僧侶・門徒・関係学校の学生
- 応募方法** 所定のエントリーシートに必要事項を記入のうえ、右記応募先まで郵送またはFAXにて提出ください。  
※エントリーシートは宗派ホームページよりダウンロードできます。  
※郵送をご希望の場合は右記「慶讃法要ボランティア募集係」へご連絡ください。
- 応募締切** 2023年2月28日(火)
- 募集内容** ①清掃・接客業務 ②境内催事「憩いのひろば」「子どものひろば」のお手伝い

**応募・お問い合わせ** 真宗大谷派宗務所総務部 慶讃ボランティア募集係  
〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る常葉町754番地  
**TEL:075-371-9272**  
**FAX:075-371-1214**  
※詳細は慶讃特設サイト「お知らせ」をご参照ください。

慶讃特設サイトはこちら



# きょうさん 慶讃 NEWS ニュース

慶讃法要まで残すところ3カ月となりました。本年4月から教区で開催されている慶讃法要お待ち受け大会は10月末までに19教区で開催され、7,200人を超える方が参加、1,199人が帰敬式を受式されています。今月は名古屋教区、富山教区、三重教区で開催されたお待ち受け大会の様子をお伝えします。※教区お待ち受け大会の報告は浄土真宗ドットインフォでもご覧いただけます。



慶讃法要に向け、さまざまな動画を公開しています。ぜひご覧ください。

大谷暢裕門首・木越渉宗務総長メッセージ



両堂で勤まる法要



慶讃テーマイメージ映像



慶讃特設サイトでも随時情報を更新しています



## 名古屋教区・名古屋別院 宗祖親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要お待ち受け大会 —一人ひとりのあり方を仏法にたずねる—

10月1日、秋晴れの中、名古屋別院において、「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」のテーマのもと、お待ち受け大会が開催され、750人が参加しました。

当日は午前中大谷暢裕門首剃刀による帰敬式が執り



帰敬式の様子

行われ、30人が受式し、暖かな日差しの差し込む本堂で仏弟子としての一歩を踏み出しました。受式者の女性は「新しい出発に気が引き締まる思いです」と柔らかな笑顔で語りました。

引き続き、午後1時からお待ち受け大会が開会しました。はじめに、お待ち受け慶讃事業推進委員会の松下正信委員長から来賓と来場者への謝辞が述べられました。「来年の慶讃法要が、心踊る法要となることを念じます」と語った松下氏の表情は、慶讃法要を機縁とし、私たち一人ひとりが今一度念仏の教えに立ち返り、人と生まれた意味をたずねていくという願いに満ちているように感じられました。続いて、木越渉宗務総長から挨拶があり、その後、同朋唱和による勤行がありました。そして、大谷暢裕門首から挨拶があり、慶讃法要の願いと意義が伝

えられました。

続いて、合唱団「名古屋教区 ちいちの華の会」による慶讃テーマソング「今日も明日も あなたもわたしも」の合唱が披露された後、「浄土真宗って何ですか。一緒に考えましょう」を講題に、尾畑文正氏(同朋大学名誉教授)による記念講演がありました。尾畑氏は、現代という時代だからこそ抱える苦悩と、どのような時代であろうと変わらない迷いをご自身のこれまでの経験をおして問い、私たち一人ひとりのあり方を仏法にたずねていく大切さについて語りました。

境内にはブースが設置され、来年真宗本廟でお迎えする慶讃法要のPRや書籍販売が行われました。また、お茶所では「坊さんカフェ」が開設され、僧侶による淹れたてのコーヒーが参詣者にふるまわれ、美味しいコーヒーを手にした参加者や親子連れなどで境内は賑わいました。

さまざまな問題を抱え、「人と生まれた意味」が見えづらくなった現代だからこそ、私たち一人ひとりが念仏の教えに立ち返り、仏法に歩む道をたずねていくことが今願われていると感じた大会となりました。



別院本堂に集った参加者 (名古屋教区通信員 荒山 優)

## 富山教区 宗祖親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要お待ち受け大会 —現代社会にもとめられていること—

10月5日、新川文化ホール(富山県魚津市)においてお待ち受け大会が開催され、約320人が参加しました。新型コロナウイルス感染防止のため、マスクの着用や手指消毒、検温、座席の間隔を確保するなどの感染対策が講じられる中での開催となりました。

開会式では、真宗宗歌を唱和した後、石川正穂慶讃事業推進委員会委員長と長峯顕教参務の挨拶があり、続いて同朋唱和による勤行がありました。その後、大谷佳人鍵役が挨拶し、慶讃法要お待ち受け大会のご縁をいただいた感謝の気持ちと、「現代社会に生きる一人の人間として、今ほど、浄土真宗・念仏の教えが求められているときはありません。あらためて、宗祖聖人が顕かにされた本願念仏のみ教えに生きようではありませんか」と述べられました。

休憩後、「なぜ、人は満たされないのか—現代社会にもとめられていること」を講題に、山極壽一氏(総合地球環境学研究所所長)の記念講演が行われました。山極氏は「右肩上がりの経済成長を目標に社会が生産性を高めるように作り変えられていく現代において、個人



合掌する参加者

の欲求はとどまることを知らず、満たされることはない。しかし、これは本来の人間や社会の在り方に合致しているのだろうか。このまま進めば地球も人類も滅びてしまう。他の

いのちとのつながりを確かめ、本来の人間の生き方を考え直さなければならない」と問題提起しました。

大会の終わりに北島昭彦富山教務所長が「人間がどう生きてきたのか、どういう生き物なのか、どういう生き方をすればよいのか」という山極氏のお話と「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」という慶讃テーマ、これは二つとも私たちに投げかけられた問いかけであり、この問いかけを一人ひとりがどのように受け取り、考えていくことが大切ではないか」と挨拶し、最後に全員で恩徳讃を唱和し、大会は閉会しました。

私たちは元来「共感力」という人間ならではの強みをもっているが、現代社会においてはその五感を用いた情緒的コミュニケーションが希薄になり、現実(リアル)より虚構(フィクション)の占める割合が拡大したと言われています。私たち一人ひとりがあらためて「つながり」を見直し、人間本来の関係性を考え直すきっかけとなる大会となりました。

(富山教区通信員 庭田龍信)



記念講演(山極壽一氏)

入館状況については、研修部までお電話でお問い合わせください。

# 2023年 真宗本廟奉仕のご案内

真宗本廟奉仕を機に、ぜひ「帰敬式」を受式ください。

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要

## ◆「慶讃法要奉仕団」・「讃仰奉仕団」・「真宗本廟奉仕 体験奉仕団」

### 【第一期法要期間】

- 2泊 ①3月25日(土)～27日(月)
- 2泊 ②3月28日(火)～30日(木)
- 2泊 ③4月 1日(土)～ 3日(月)
- 2泊 ④4月 6日(木)～ 8日(土)

### 【第二期法要期間】

- 2泊 ⑤4月15日(土)～17日(月)
- 2泊 ⑥4月18日(火)～20日(木)
- 2泊 ⑦4月21日(金)～23日(日)
- 2泊 ⑧4月24日(月)～26日(水)
- 2泊 ⑨4月27日(木)～29日(土)

### 【讃仰期間】

- 2泊 ①4月 9日(日)～11日(火)
- 2泊 ②4月12日(水)～14日(金)

詳しくはこちら



申込締切 2023年2月24日(金)

## ◆真宗本廟 おみがき奉仕団

2泊 3月2日(木)～4日(土)

1泊 3月2日(木)～3日(金)

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要を迎えるにあたって、阿弥陀堂や御影堂の仏具のおみがきを日程の中心とした奉仕団です。

申込締切 2023年1月20日(金)

「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」の期間に募集している奉仕団です。慶讃法要にお遇いする大切な時を一緒にお迎えしませんか。

※「真宗本廟奉仕 体験奉仕団」は上記「慶讃法要奉仕団」期間中に開催いたします。

参加費(共通) (2泊3日) 18,000円、米2kg(1升4合)または米代1,300円  
(1泊2日) 13,000円、米1.2kg(8合)または米代800円

※上記は大人(15歳以上)の場合です。※讃仰奉仕団は「御旧跡参拝参加費」として別途5,000円が必要です。

## 【お問い合わせ】同朋会館・研修部 TEL:075-371-9185

- 受け入れ状況などの情報は、同朋会館ホームページをご覧ください。
- ご入館される皆様に安心して過ごしていただけるよう、新型コロナウイルス感染症予防対策を実施し運営しています。
- 具体的な対策については、同朋会館ホームページよりご確認ください。



真宗本廟奉仕参加者の声を「ご紹介」

あらためて奉仕団の歴史や清掃奉仕の重要性を教えてください、先達の方々がいかにか、ご本山の護持に心を砕かれてきたかを気づかせていただきました。(40代・女性)

## 今月号の『同朋新聞』を読んで、

# プレゼント付 クロスワードパズル を完成させよう!

「タテのカギ」「ヨコのカギ」それぞれの設問に答え、クロスワードパズルを完成させましょう! 12月号の『同朋新聞』を読むと、ほとんどの答えがわかります!!

### タテのカギ

- 10月18日から20日に、「第30回〇〇〇仏教徒会議」がタイ・バンコクにて開催されました。(9面)
- 『聞一今月の法話一』今月のタイトルは、「〇〇慶宿縁一時空を超えて届けられた声と願い」です。(8面)
- 「ど〇〇〇会館」の『サガエさんの部屋』は、誰が来ても、何を話してもいい場所です。(6・7面)
- 『親鸞聖人にであう』今月のタイトルは、「夢一聖徳太子と六角ど〇〇〇うー」です。(5面)
- 『第46回 全日本仏教徒会議 山梨・身延山大会』のテーマは、「共に生きる尊さ～だれも取り〇〇〇〇〇〇社会の実現に向けて～」でした。(9面)
- 名古屋教区お待ち受け大会では、合唱団「名古屋教区 ちい〇〇なの会」による慶讃テーマソング『今日も明日も あなたもわたしも』の合唱が披露されました。(11面)
- 『聞一今月の法話一』今月の筆者は、「だ〇〇よう寺教区」の出雲路香さんです。(8面)
- 三重教区お待ち受け大会では、「〇〇谷裕」新門剃刀による帰敬式が執り行われました。(10面)
- 富山教区お待ち受け大会では、「〇〇極壽一」氏の記念講演が行われました。(11面)

読者のこえ (9月号を) ◆「今月の法話一聞一」 ◆「南無阿弥陀仏」と手を合わせる暮らしが我が家では子や孫に繋がっています。(60代男性)

◆「今月の法話一聞一」 ◆「南無阿弥陀仏」と手を合わせる暮らしが我が家では子や孫に繋がっています。(60代男性) ◆仙台教区お待ち受け大会、私も参加したのでとてもうれしく拝読しました。(80代女性)

### ヨコのカギ

- 『人間といういのちの相』今泉忠明さんは、「ベスト〇〇ー』『ざんねんないきもの事典』のほか、多くの図鑑監修を手がけられています。(2・3面)
- 親鸞聖人が六角堂に参籠されたとき、夢に出てきてお告げをされたのは、六角堂のご本尊である「〇〇〇〇〇つ」です。(5面)
- 『御同朋・御同行からの問いかけ』今月のテーマは、「聞法〇〇〇出発」です。(4面)
- 『子どものつどいin東本願寺』では、親鸞聖人が住んでおられたと伝えられる草庵をイメージした「草庵 親鸞さまの〇〇〇〇〇」というブースがあります。(6・7面)
- 教区「お〇〇受け大会」の報告は、浄土真宗ドットインフォでもご覧いただけます。(11面)

※答えはすべて「ひらがな」でお答えください。

答え

A	B	C	D
---	---	---	---

10月号のクロスワードパズルの答えは、こすもす

## チャレンジ! 正解者の中から抽選で5名様に「東本願寺出版オリジナル図書カード1000円分」をプレゼントします!

郵便はがきまたはメールにて、①「クロスワードパズルの答え」②「郵便番号」・「住所」・「氏名」・「年齢」・「電話番号」と③『同朋新聞』の感想や紙面に関する要望を添えて、下記までご応募ください。今月号の締め切りは12月31日(土) (当日消印有効)です。

### メールでも応募できます!!

はがきと同様に必ず上記①②③を記入し、「件名」に「同朋新聞12月号クロスワード応募」と入力の上、higashihonganjishuppan@gmail.comへお送りください。



応募はコチラ

【ご注意】◆当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。◆個人情報プレゼントの発送および紙面づくりの参考に使用し、それ以外の目的には使用しません。◆感想は「読者のお便り」に掲載する場合があります。◆本クロスワードパズルは、独自のルールに基づいて作成しております。

宛先 〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る 東本願寺出版「クロスワードパズル係」まで

## 編集室 だより

◇来年5月5日に、真宗本廟で「子どものつどいin東本願寺」が開催されます。(6・7面)準備に携わられてきたスタッフの方の座談会に私も同席しました。当日はつどいの会議後でお疲れの中にもかかわらず、これまでの青少年教化の取り組みや読者へのメッセージをお話くださるみなさんの姿から、つどいへの熱い思いと込められた願いの強さを感じました。また、「であう つながる とともにある」時

がすでに始まっているのだとうれしく思いました。そして、私もその中の一人であると感じています。◇9月号より『同朋新聞』の編集に携わることとなりました。日々寄せられるお便りをとおして、新聞をお読みいただいているみなさまの温もりを感じ、とてもうれしく思っています。みなさまから愛される『同朋新聞』を作り上げていくために精一杯努めてまいります。どうぞよろしく願いいたします。(古賀)

## 京仏壇京仏具・お仏具ご修復・ご本堂内装・お納骨壇

安永4年(1775年)創業 神仏につなぐものづくり



京仏具 小堀

ご寺院様用商報(京仏具第95号) ご請求は本店へお願いします



～年末年始の休業～  
12月29日～1月4日休業いたします  
1月5日より通常営業いたします  
(東京店は1月6日より通常営業いたします)

株式会社 小堀 https://koyori.co.jp/

本店 〒600-8159 京都市下京区烏丸通正面上る ☎(075)341-4121(代) FAX(075)341-4128  
東京店 ☎(03)3843-6961(代) FAX(03)3845-5343  
福岡店 ☎(092)715-1510(代) FAX(092)713-4720  
札幌店 ☎(011)512-5171(代) FAX(011)512-5183  
小堀京仏具工房(京都工場)

<本店>年中無休 9:00～17:00

<東京店>木曜日・祝日定休9:30～17:30

<福岡店・札幌店>日曜日・祝日定休9:30～17:30